

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年1月22日

[テーマ] 「前橋三大祭り」見物—だるま市の活気 感心—

社会人になりたてのころ、先輩から、説明時にはポイントを3点に整理せよと教育された。3点より多くても少なくてもいけないということであった。当時は渋々従っていたが、年月を経て、自然と3点に整理するように努めている自分に気が付く。

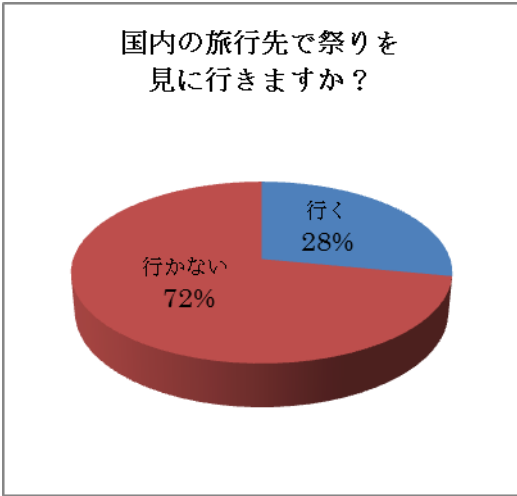
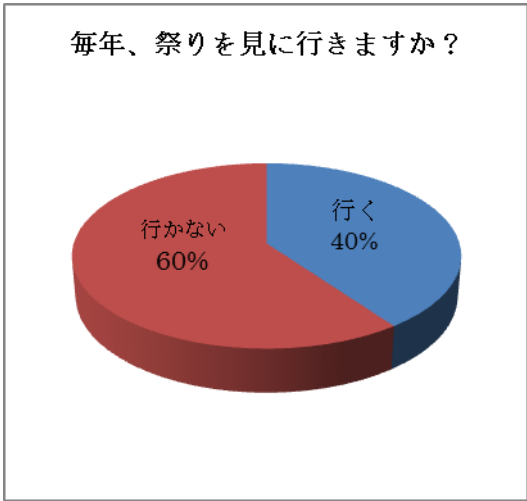
世の中には三大〇〇というのが数多くある。やはり3の数字がちょうど良いらしい。そこで取り上げたいのが「前橋三大祭り」。昨年5月に赴任し、「七夕祭り」と「前橋祭り」の盛り上がりを見てきたので、「初市祭り」がやってくるのがとても楽しみであった。

祭りは、古いだるまを燃やす「だるま供養」で幕を開け、市神様の八幡宮から仮宮への渡御へと続く。華龍太鼓の音が鳴り響く中、木遣りや神輿、天狗や大獅子などの行列が中心商店街を練り歩く。主要な通りはだるまをはじめとした縁起物などの露店であふれている。天気にも恵まれ、気温も高めということもあり、沢山の人でにぎわっていた。

「初市祭り」は「だるま市」とも呼ばれている。私とだるま市には縁がある。かつて住んでいた東京都調布市で開かれる「深大寺だるま市」は、高崎市や静岡県富士市のだるま市と並ぶ「三大だるま市」の一つ。小さいころからだるま市には毎年出かけていた。普段見慣れている境内や門前がだるまの朱色に染まる。この時には買い食いを許されるのだが、私のお気に入り、群馬ではおなじみの、こんにゃくだけのみそおでんであった。

今年、露店で小さなだるまを買ってみた。もちろん値切ってである。こちらでは毎年1サイズずつ大きくしていくのが良いそうだ。毎年買い替えるから、だるま供養であれば多くのだるまが燃やされるのだろう。この時期各地で行われる「どんど焼き」でも沢山のだるまが燃やされているらしい。群馬のだるま生産量は全国8割のシェアというが、消費量の方もかなり多いに違いない。

おっといけない。「前橋三大祭り」と「三大だるま市」では三つに一つ足りない。こういう時には奥の手がある。讃岐うどんや稲庭うどんとともに「三大うどん」である水沢うどん。家に帰って買い置きしていたうどんに舌鼓を打ったのであった。



(出所) JTB「日本の祭りに関するアンケート調査」(2015年6月実施)

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕